

2024 年度 第 2 四半期 決算説明会 質疑応答要約

● 全体

Q) 第 2 四半期の売上収益・事業セグメント利益について、社内計画に対する達成度は。

- A) 期初の社内計画と比較し、売上は全社で約 10 億円の下振れとなった。為替のプラス影響が約 70 億円あるため、実質約 80 億円の下振れ。下振れの多くはマシンリー事業が占める。
事業セグメント利益は、全体で 10 億円弱の下振れとなった。為替のプラス影響を除くと、実質約 40 億円の下振れだが、マシンリー事業の売上が下振れた影響が最も大きい。P&S・P&H 事業でも下振れたが、P&H 事業に関しては、第 1 四半期からの経費の期ズレが主要因であり、上期としてはほぼ計画線。

Q) 通期業績予想の修正内容について、P&S・マシンリー事業は説明いただいたので、それ以外の事業についても解説をお願いしたい。

- A) ドミノ事業は、製品本体が欧州を中心に若干計画に届いていないが、消耗品は堅調に推移しており、全体では期初計画通りに推移すると見ている。ニッセイ事業は、産業機器と同様、設備投資需要が厳しい状況にあり、下方修正した。P&H 事業は、売上・利益ともに下期の比率がやや高いが、新製品投入効果を見込んでおり、期初計画は達成可能と見ている。N&C 事業は、達成可能な固い数字にした。

● P&S 事業

Q) レーザー本体を除いて対前年で売上が伸長している背景と、下期の見通しは。

- A) レーザー本体に関しては、第 1 四半期にベトナム工場での生産制約の影響を受けたため、第 2 四半期から挽回する計画を立てていた。しかし、物流混乱の影響で船足が長くなり、第 2 四半期にも供給が間に合わず、在庫が十分でなかった。そのため、レーザー本体は計画を達成できなかった。下期で挽回を図りたいが、上期のマイナスを全てカバーするのは難しく、下期は計画通りの販売を予定している。消耗品については、好調だった。
インクジェットに関しては、上期も好調に推移したが、下期も引き続き好調に推移すると見ている。

Q) 消耗品が堅調だった背景は。

- A) 第 1 四半期は北米における値上げ後の買い控えがあったが、第 2 四半期ではそれが是正されたことと、昨年からの値上げの効果があった。

Q) 地域ごとの市況や、セルイン・セルアウトの動向はどうか。

- A) レーザー本体については、欧州・中国の市況が振るわなかった一方、アジア・中南米は活発だった。セルインに関しては、供給遅延の影響でレーザー本体の在庫および供給が十分ではなかった。当社の供給が不足した中でも、市場シェアはそれほど低下していないので、市場全体のセルアウトも弱かったと見ている。レーザー消耗品の在庫は、適正水準。
インクジェットについては、本体・消耗品ともに在庫は適正水準。

Q) 業界内で健闘しているように見えるが、どう捉えているか。

A) レーザーは、市場規模が想定ほど回復していない中で、今後競争が厳しくなってくることを想定している。下期は、本体販売を引き上げるためにも、販売投資やプロモーションには十分な備えをして臨みたい。

● **マシナリー事業**

Q) 産業機器については、第 1 四半期の時点でも、中国での設備投資の弱さは見えていたと思うが、このタイミングで通期予想を下方修正した理由は。

A) 産業機器の市況については、日本工作機械工業会の見通しを見ても不透明で、第 1 四半期の時点でも方向感が見えなかった。今年の 1 月を底に反転して上昇する兆しがあったため、期待感を持って前回は据え置いた。しかしその後、二番底のような不振な月もあった。上期の実績と、当初期待していた反転上昇という方向感にはなっていないことを踏まえ、このタイミングで見直しをした。

Q) 産業機器の期待とのずれが大きい地域・業界と、本格回復の時期をどう見るか。

A) 全体的に期待値に達していないが、当社は中国の売上比率が高いので、中国の回復遅れの影響が大きい。インド・東アジアは好調だが、他はあまりよくなく、欧州は落ち込みが少しずつ大きくなっている。中国に関しては、EV を中心とした部品の需要は高まっているが、コスト要求が厳しくなっており、設備投資にかなり慎重な姿勢になっている。ただ、工場稼働は高い水準にあり、設備投資の潜在需要は高まっていると見ており、タイミングについては明確に申し上げられないが、近い将来需要が回復すると期待している。

Q) 下期の利益水準の達成確度は。

A) 売上が達成できれば利益の達成は可能だが、市況の見立てに関しては期待値を含んでいる。

以上